

アルゼンチンの急進主義とドル化

アルゼンチンの大統領選は急進自由主義者と言われるミレイが選出された。本選の一回目の投票で一位だった現職の経済大臣を決選投票で破った。11ポイントと意外な大差がついた。

ドル化や中央銀行の廃止などセンセーショナルな政策を掲げていたこともあり、世界的に注目を浴びた。

選挙後初めての昨日の市場では(月曜日休日だった)、債券高、株高、通貨安に動いた。急進的と言うことでトリプル安の予想もあったが、市場機能を重視する候補者の勝利が一般的にもたらす反応を市場は示した。

アルゼンチンでは長期にわたってインフレ、通貨安、資本流出が続き、通貨危機も繰り返された。その間国民は通貨や地場の金融機関に対する信頼を失った。政権が変わっても事態の改善はほとんど続かなかった。

こうした病理に対処するには急進的と思われる政策で対応するしかないと考ええることは決して急進的ではなく、合理的とも言える。

昨日の市場では財政支出の大幅な削減への期待からインフレや金利の上昇が抑制されるとの思惑から債券が買われた。さらに国営企業の民営化期待もあり株も買われた。だが為替はドル化への過程でペソ売りが加速すると見られ、ドルペソは上昇(ペソ下落)した。ドルペソはブラックマーケットで1000を再び超えてきた。公式レートは356で、その差は広がった。

注目のドル化と中央銀行の廃止だが、ドル化が実現すれば中央銀行は主要な役割である金融政策や通貨の管理をする必要はなくなり廃止も可能だ。だがドル化の方は明日からペソを止めてドルに変えるというわけにはいかない。準備と手順が必要になる。とりあえずブラックマーケットと公式レートの為替レートの統一、つまり実勢であるブラックマーケットに合わせるところからでもスタートするのか。

それに政治的力量も必要になる。ドル化は通貨主権の放棄に繋がり、議会で少数派の基盤しか持たない大統領にとっては難しい仕事になるだろう。多数派工作と国民の圧倒的なサポートが必要になる。

ドル化が実現すればインフレは抑制されるだろうし、インフレ、資本流出、通貨安の悪循環が一変する可能性がある。

ただ財政支出の大幅な削減やドル化に伴うデフレ圧力に国民が耐えられるかどうかも問題だ。インフレはこりごりと思って投票した国民も政府のバラマキに長年どっぷりつかってきたわけで、成果が上がる前に国民の支持を失う懸念もある。その点では早く成果を上げたいところだ。

新大統領は公約だった銃規制の緩和などいくつかの政策を撤回したようだ。政策の優先順位をつけ政治的資本を重点政策に注ぐつもりだろう。